て常識的に考えられることと逆になつておりますが、どうい理由ですか。

- 福本 佳夫君 第3図に見られますように η に peak ができるため、 β , F_{01} の値によつては peak の位置が変り $\xi=0$ の η が $\xi=1-0$ の η より大きくも小さくもなります。

追記 (F_{01} , β の同じとき板1だけを考えれば追加撓みが小さいことから $\xi=1-0$ で η は最大となるが、板2では初期撓みの小さいことが効いて $\xi=0$ で η は最大 ($P_{00} \rightarrow 0$ のとき) となり、全体の η に peak ができる。なお $-P_{00}$ が大となれば peak は次第に右により、 $\xi=1$ で最大値をとるに至る。)

- (座長)秋田 好雄君 それではお礼を申し上げますが、初期撓みの問題は数年来論ぜられて来た所でありまして、著者の従来の方向を変えて面内歪として平均値をとつた場合と、とらない場合とを比較されております。この問題は船体構造上設計現場の立場で参考になる資料でありまして、拍手を以つてお礼申し上げます。(拍手)

p. 151~161 貨物船船殻構造の立体強度計算方法について (第2報)

- (座長)秋田 好雄君 御質問、御討論ございますか。岡部さん、堀さんは前回と2回に亘つて貨物船船殻構造の立体強度計算を提案されまして実用的に實際使える所までもつてこられました。御承知の通り従来は輪切りの計算でありましたが、それはどうしても severe な計算になつてしまうのでありまして最近では立体計算法が盛んになりましたが、今回著者が出された計算法は実用的であり立派な成果を出されております。拍手をもつて著者にお礼申し上げます。(拍手)

p. 163~172 船体横強度近似計算法について (第1報)

- (座長)秋田 好雄君 御質問、御討論ございましたらどうぞ。ございませんか。それでは著者に一言お礼申し上げます。ただ今の船体横強度の近似計算の御講演は縦通部材の反力が簡単な方法で出されしかも厳密な計算結果と比較して非常に近い結果が出るということです。先程の岡部さん堀さんの御講演とひつくるめまして立体強度計算法が次第に形に現われて来て、実用的になつて来たのでありまして茲に山口さんの論文に対しまして拍手を持つてお礼申し上げます。(拍手)

p. 173~177 残留応力を有する柱の塑性域における挫屈について (第2報)

- (座長)鬼頭 史城君 ただ今の御講演に対しまして御質問、御討論がありましたらお願いいたします。よろしければ引き続いて次をやつて頂きましようか。

p. 179~185 柱の不安定現象におよぼす残留応力の影響について

- (座長)鬼頭 史城君 No. 22, 23 両論文を合せまして御意見なり御質問がございましたらどうぞ。………ごさいませんようでしたら私の方から一言お尋ねいたしますが、残留応力があれば一般論として挫屈荷重が減ると思いますが、必ず減るという証明があるんでしうね。

- 藤田 譲君 先程のことにも関連しますが私から付加えさせて頂きます。弾性領域では増える場合もありますが、塑性域ではそういうことはありません。

- (座長)鬼頭 史城君 柱の設計に関しましては昔は弾性域ばかりを考えておりましたが、著者は塑性域に入りいろいろな点を調べておられますので、造船ばかりでなく機械、建築その他工学全般にわたつて、誠に興味ある問題だと思ひます。さらに御研究して頂いたら益々有益なる結果が得られるのではないかと存じます。拍手を以つてお礼申し上げます。(拍手)